

2017/11/19 選挙と移行期正義(1) : ウジャン・シュレスタ殺害事件

2017/11/13 京都の米軍基地(113): 軍機への恐れ

2017/11/12 京都の米軍基地 (112) : 空自の便乗拡大?

2017/11/10 京都の米軍基地 (111) : いたるところで土木工事

2017/11/08 京都の米軍基地(110) : 米軍の英語帝国主義

2017/11/06 みのりの秋, 里も山も

## 選挙と移行期正義(1):ウジャン・シュレスタ殺害事件

国会・州会ダブル選挙まで、あと1週間。この選挙は、人民戦争後平和構築の制度的総仕上げとなる重要な選挙だが、もう一つ、見落としてならないのが、戦後処理としての移行期正義との関係。

### 1. ネパールにおける移行期正義の難しさ

人民戦争(マオイスト紛争)においては、政府・議会政党側もマオイスト側も、強制失踪、拷問、虐殺、財産強奪など様々な人権侵害に関与した。戦後平和構築においては、これらの重大な人権侵害につき、事実を解明し、それに基づき加害者の謝罪と必要な場合には処罰、および被害者の救済が行われなければならない。公正な移行期正義の実現である。

この移行期正義の実現には、誰も建前としては反対しない。しかし、現実には、そうはいかない。ネパール人民戦争は、交戦当事者のいずれか一方の勝利ではなく、両者の停戦・和平という形で終結した。そのため戦後体制には人民戦争を戦った政府側諸勢力とマオイストの双方が参加し、軍や警察による人権侵害を裁こうとすればNC, UML, RPPなどが、逆に人民解放軍による人権侵害を裁こうとすればマオイストが、反対する。

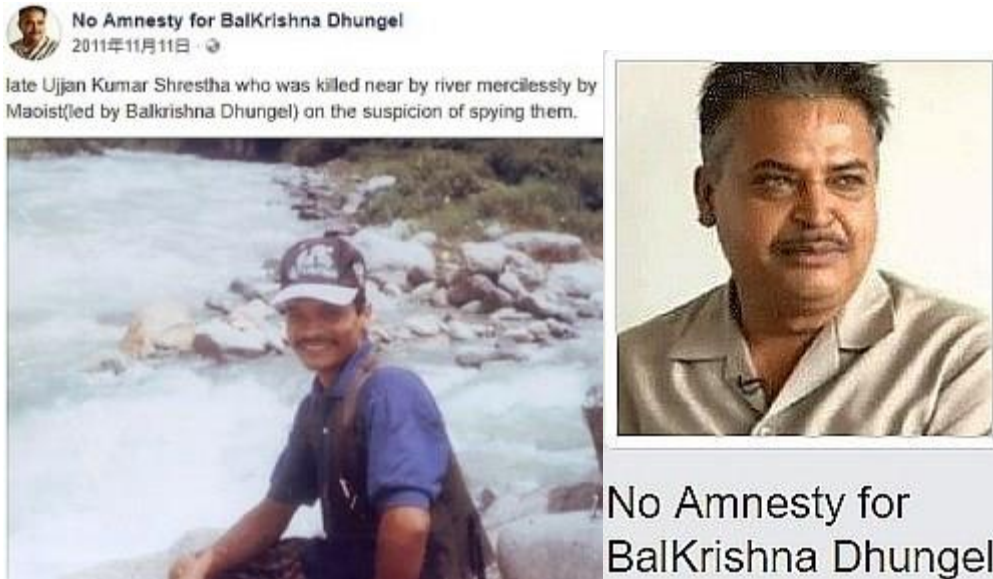
ネパールにおいて、移行期正義は、政党とりわけその有力幹部たちにとっては、人権問題である以上に、自分たちの命運を左右しかねない重要問題なのである。

### 2. ウジャン・シュレスタ殺害事件

この移行期正義は、今回の選挙においても当然取り上げられ、政治問題化している。最も注目されているのが、マオイスト幹部によるウジャン殺害事件。その概要は、報道によれば以下の通り(\*3,\*4)。

ウジャン・クマール・シュレスタ(Ujjan Kumar Shrestha)はオカルドウンガの住民。そのウジャンの身内が異カースト間結婚をしたことに怒り、あるいは別説ではウジャンがスパイ行為をしたと疑い、地元出身のマオイスト幹部バルクリシュナ・ドゥンゲル(Balkrishna Dhungel)が1998年6月24日、プシュカル・ガウタムら仲間7人を引き連れウジャンを待ち伏せて襲撃、銃で撃ち殺し、遺体をリクー川に投棄した。

事件後、弟のガネシュ・クマールが兄殺害を訴え出ようとしたところ、やはりマオイスト集団に彼も虐殺された。さらにガネシュの娘ラチャナも、父の居所をうっかりマオイストに告げてしまったため父が殺されたと思ひ込み、自殺してしまった。



■ウジャン(左)とドウンゲル(右)(FB: No Amnesty for BalKrishna Dhungel 2011-11-11)

### 3. ドウンゲル裁判と議員特権

ウジャン殺害6年後の2004年5月10日、オカルドウンガ郡裁判所が、ドウンゲルに対し、ウジャン殺害の事実を認め、財産没収の上、終身刑に処するとする判決を下した。他の仲間7人も有罪判決を受け、ドウンゲルとともに収監された。

ところが、ドウンゲルは判決を不当とし、ラジビラジ上訴裁判所に上訴、2006年に無罪判決を受け、釈放された。そして、2008年4月には制憲議会選挙にオカルドウンガ選挙区からマオイスト候補として立候補して当選、議員となった。

これに対し、ウジャン家族は最高裁に上訴、2010年1月3日最高裁においてラジビラジ上訴裁判所無罪判決を取り消し、オカルドウンガ郡裁判所判決を支持する判決を得た。ドウンゲルを財産没収のうえ終身刑とする判決が確定したのである。

ところが、最高裁判決が出たにもかかわらず、ドウンゲルは「議員特権」により収監されなかった。そして、翌2011年11月8日には、バブラム・バタライ首相(マオイスト)が、ドウンゲルに大統領恩赦を与えるよう大統領に勧告した。これに対し、最高裁は2011年11月23日に恩赦手続き停止命令、2016年1月7日には恩赦禁止命令を出し、さらに2016年4月16日には警察総監に対しドウンゲル逮捕命令を出した。しかし、これらの最高裁命令にもかかわらず、ドウンゲルは依然として収監されることはなく、自由を謳歌していた。

この最高裁命令無視に対し、2017年10月24日、ディネシュ・トリパティ弁護士が警察総監を法廷侮辱容疑で告発した。ここに至って、警察は2017年10月31日、ようやくドウンゲルを逮捕し、ディリバザール刑務所に送った。この手続きが確定すれば、ドウンゲルはオカルドウンガ郡裁判所判決後の収監期間を差し引く、残りの12年5か月余の期間、収監されることになる。

#### 4. マオイストのダウンゲル擁護

以上が、ウジャン殺害とその後の経過の概要だが、ダウンゲル再逮捕、収監へと大きく動き始めたのは、国会・州会ダブル選挙日程がほぼ決まり、選挙戦が本格化し始めたころからであった。したがって、マオイスト幹部であり国会議員選挙出馬予定のダウンゲル逮捕への動きが、選挙と関係しているとみるのが自然であろう。

ダウンゲル再逮捕への動きが出ると、マオイストは党を挙げて彼を守ろうとした。たとえば、2017年3月12-13日、マオイストはラメチャップ郡で集会を開き、ダウンゲル逮捕を命令した最高裁判決を激しく非難した。ダウンゲルはこう演説した。「最高裁判決は破棄させる。……この判決を下した裁判官を逮捕してやる。」(\*12)

2017年10月30日、ダウンゲルが逮捕されると、マオイスト幹部のディペンドラ・ポウデルは、こう非難した。「この逮捕投獄は、進行中の平和構築への重大な攻撃だ。この種の事件は移行期正義の手法で解決することに諸党が合意していたのに、いまになって逮捕が強行された。これは平和構築の完成を危うくすることになる。……これは、包括和平協定と憲法の規定および精神に反している。」(\*21)

また、マオイスト報道担当幹部のパンパ・プーサルも、「和平合意の精神に照らせば、戦時の事件は真実和解委員会(TRC)において解決されるべきである」と述べ、ダウンゲル逮捕は選挙を失敗させる恐れがあると警告した(\*20)。

さらに戦闘的マオイスト組織として知られている「青年共産主義者同盟(YCL)」も、ウジャン事件は「真実和解委員会」を通して解決されるべきだとして、彼の即時釈放を要求した。そして、もし釈放されないなら、人民戦争期のNCやRPPの関与が疑われる事件をすべて暴き、責任者を告発する、と警告した(\*19)。

このように、ダウンゲル逮捕にマオイストが激しく抵抗するのは、人民戦争期の重大な人権侵害事件に党首プラチンダをはじめ党幹部の多くが多かれ少なかれ関与しているとみられており、ダウンゲル逮捕を認めると、責任追及が彼ら幹部たちにも及びかねないからである。

#### 5. ドウンゲル擁護の根拠

しかしながら、マオイストによるダウンゲル擁護にも根拠がないわけではない。第一に、人民戦争関係諸事件は真実和解委員会ないし移行期正義の手法により解決することが、停戦・和解の際、取り決められていたこと。

そして、第二に、マオイストが警告しているように、重大な戦時人権侵害には政府側の軍や警察あるいはNC、UML、RPPなど当時の議会主要諸政党が関与していたことが少なくないこと。マオイスト側の戦時人権侵害を刑事事件として裁くなら、政府側も裁けということになり、下手をすると紛争再発となりかねない、というわけである。

#### 5. 移行期正義の難しさ

これは難しい問題だ。ウジャン家族をはじめ被害者家族は、戦時人権侵害に対する損害賠償と責任者の厳罰を要求している。

内外の人権諸団体も、重大な戦時人権侵害を政治取引により免罪にすることには、強く反対している。たとえば、フレデリック・ラウスキー国際法律家協会(ICJ)アジア太平洋地域委員長はこう批判している。「人権侵害容疑者たちを守ることが、政治的支持を得たり政治的協力関係を作るための交渉の切り札として使われた。……政党間取引のため人権尊重義務が損なわれるようなことをしてはならない。」(\*26)

純然たる平時においては、確かにその通りだ。しかし、泥沼の人民戦争を終結させるため政治的に採用されたのが移行期正義ないし真実和解委員会による和解。戦時を平時にどう移行させるか、これは難しい。

## 6. 選挙で問われる移行期正義の在り方

ウジャン殺害事件は、選挙戦本格化とともに大きく動き、マオイスト幹部のドゥンゲルが2017年10月31日、犯人として逮捕・投獄された。

そして、選挙管理委員会は2017年11月6日、ドゥンゲル立候補への異議申し立てを受理し、マオイスト比例制候補者リストから彼の名を削除した。マオイストの政治的敗北である。

今回の選挙でNCやRPPが大勝すればマオイスト側の戦時人権侵害が、逆にマオイストを中心とする共産党連合が大勝すれば旧政府側の戦時人権侵害が、表に出され、責任追及が激しくなる可能性がある。

戦争から平和へ——その移行の総仕上げとなる国会・州会ダブル選挙において、移行期正義はどうあるべきかも問われている。



[1998]

\*1 DEWAN RAI, "Apex court denies clemency to murder convict Dhungel: Issues mandamus order to send Maoist leader to prison for life," Kathmandu Post, June 24, 1998

[2010]

\*2 INTERNATIONAL COMMISSION OF JURISTS, "ICJ urges the Government of Nepal to cease obstruction of justice," ICJ, 5 October 2010

[2011]

\*3 Advocacy Forum, "UJJAN KUMAR SHRESTHA,"

<http://advocacyforum.org/fir/2011/10/ujjan-kumar-shrestha.php>

\*4 KANAK MANI DIXIT, "The lords of impunity," Nepali Times, #578 (11 NOV 2011 - 17 NOV 2011)

[2014]

\*5 "Jail-sentenced former Maoist cadre arrested & jailed," Kathmandu Post, May 13, 2014

\*6 Pranab Kharel, "SC to begin fresh hearing on appeal against Dhungel," Kathmandu Post, Sep 5, 2014

[2016]

\*7 NABIN KHATIWADA, "No presidential clemency for Bal Krishna Dhungel: SC," Republica, 07 Jan 2016

\*8 Nabin Khatiwada, "SC body again tells police to arrest murder convict Dhungel," Republica,

December 27, 2016

[2017]

\*9 Deepak Kharel, “Murder-convict Dhungel hasn’t been arrested because police don’t want it,” Republica, January 6, 2017

\*10 “Prachanda Talks About Balkrishna Dhungel,”

<http://khabarvideo123.blogspot.jp/2017/02/prachanda-talks-about-balkrishna-dhungel.html>

\*11 Anil Bhandari, “Murder-convict Dhungel felicitated in Okhaldhunga,” Republica, March 14, 2017

\*12 “Issue arrest warrant against Bal Krishna Dhungel: SC orders IGP Aryal,” Kathmandu Post, Apr 13, 2017

\*13 “Supreme Court tells police to nab Bal Krishna Dhungel in a week,” Himalayan Times, April 13, 2017

\*14 “Rule of lawlessness: The row over Balkrishna Dhungel inaugurates a new turbulence,” Indian Express, April 17, 2017

\*15 “Contempt of court writ filed against IGP Aryal,” Kathmandu Post, Oct 24, 2017

\*16 “IGP charged for neglecting Supreme Court’s verdict to arrest Dhungel,” Republica, October 24, 2017

\*17 Shirish B Pradhan, “Maoist party leader arrested for murder during Nepal civil war,” Outlook India. 31 OCTOBER 2017

\*18 “CPN (MC) demands prompt release of Dhungel,” Kathmandu Post, Oct 31, 2017

\*19 “YCL demands immediate release of Dhungel,” Kathmandu Post, Oct 31, 2017

\*20 “CPN-MC calls for Dhungel’s release,” Himalayan Times, October 31, 2017

\*21 “Finally, murder-convict Dhungel arrested, sent to jail,” Republica, November 1, 2017

\*22 “Demonstration in Okhaldhunga demanding Dhungel’s release,” Kathmandu Post , Nov 1, 2017

\*23 “Murder convict Dhungel sent to prison,” Peoples Review, 2017/11/01/

\*24 “Dhungel highlights weaknesses, as well as promises, for conflict victims seeking accountability” Kathmandu Post, Nov 2, 2017

\*25 Vinita Rawat, “Nepal: Arrest of Maoist leader Dhungel raises hope of justice for war-era victims,” The aPolitical | 02/11/2017

\*26 “Search for truth and justice continues in Nepal: ICJ; Says arrest of Maoist leader Dhungel highlights weaknesses, as well as promises, for conflict victims seeking accountability,” Kathmandu Post, 02-11-2017

\*27 “Half a milestone: Maoist leader Dhungel’s arrest for war-era murder should now be followed by broader prosecution,” Kathmandu Post, Editorial, Nov 2, 2017

\*28 Ritu Raj Subedi, “Arrest Order Against Dhungel A Blow To Prachanda,” Rising Nepal, 4 November 2017

Written by Tanigawa 2017/11/19 at 21:02

カテゴリ: [マオイスト](#), [選挙](#), [軍事](#), [司法](#), [人権](#), [人民戦争](#) Tagged with [真実和解委員会](#), [移行期正義](#), [包括和平協定](#), [強制失踪](#)



## 京都の米軍基地(113): 軍機への恐れ

軍機(軍事秘密)への警戒は、外国では、身を守るため必要不可欠なことだ。軍隊や軍事施設をうっかり撮ってしまったり、それらに不用意に近づいたりすると、カメラを没収されたり、スパイ容疑で拘束されたりする恐れがある。万が一、スパイ容疑で起訴されると、反証は難しく、重罰を覚悟せざるを得ない場合が少なくない。

幸い日本は、非武装平和憲法を持ち、建前としては軍隊を保持してこなかったため、日常生活で軍機を気にする必要はほとんどなかった。戦前日本のような、あるいは多くの諸外国にみられるような軍機の息苦しさ、重苦しさから、戦後日本人は解放されていたのである。

ところが、ここに来て雲行きが怪しくなってきた。2013年12月には特定秘密保護法が成立。日本でも、軍隊や軍事施設に不用意に近づくと、拘束され、処罰されかねない状況になってきた。いまのところ、望遠レンズ付カメラで自衛隊基地や米軍基地を撮影しても、それだけでは、とがめられたり拘束されたりすることはない。しかし、この状態がいつまで続くか？

皮肉なのは、軍機と言いつつも、他方ではグーグルなど、先端技術で、軍隊や軍事施設のかなりの部分が丸裸になっていること。日本三大秘境の一つ、丹後半島も、グーグルはバッチリ撮影し、世界に向け広く公開している。解像度、革命的に向上。

(1)グーグル・ストリートビュー(2013年9月撮影)





■これらは 2013 年 9 月撮影のグーグル・ストリートビュー。上が空自用地, 下が米軍用地。このビューは現在も使用されており, 新旧の比較に便利。

(2)グーグル航空写真(11 月 13 日閲覧)



■空自「司令部地区」・九品寺(穴文殊)・米軍基地

### (3)空自「岳山レーダー地区」



■グーグル航空写真(11月13日閲覧)／九品寺からの遠望(11月6日撮影)

### (4)九品寺(穴文殊)参道入口の異物



■監視装置？(11月6日撮影)

Written by Tanigawa 2017/11/13 at 17:20 カテゴリー: [軍事](#), [平和](#)

Tagged with [特定秘密保護法](#), [米軍基地](#), [経ヶ岬](#), [軍機](#), [Xバンドレーダー](#), [京丹後](#)

## 京都の米軍基地(112):空自の便乗拡大？

丹後半島には以前から空自基地があった。穴文殊(九品寺)に向かって左側のこじんまりした「経ヶ岬分屯基地」。

ところが、米軍 X バンドレーダー基地が穴文殊に向かって右側に設置されることになって以降、空自基地施設の新增設がはじまった。国道 178 号線沿い(米軍基地の並び)に大きな3階建ての「第 35 警備隊」庁舎ビル、その隣には巨大パラボラアンテナをつけた高い鉄塔2基。他にも新しい施設がいくつか見られる。(岳山「レーダー地区」の施設も増強されているようだが、進入禁止のため、詳細不明。)



軍機につきはっきりしないが、米軍基地受け入れを機に、空自基地も増強されつつあるとみてよいのではあるまいか。



■九品寺うらの米軍シート。視界遮断，騒音通過。



■米軍基地(国道沿い)／レーダードーム(手前米軍，山頂空自)



■空自庁舎ビル(国道沿い)／空自基地・庁舎地区

Written by Tanigawa 2017/11/12 at 14:23

カテゴリー: [軍事](#), [平和](#) Tagged with [米軍基地](#), [経ヶ岬](#), [Xバンドレーダー](#), [京丹後](#)

## 京都の米軍基地(111):いたるところで土木工事

米軍 X バンドレーダー基地を受け入れた丹後半島で目立つのは、土木工事。いたるところで大小様々な工事が行われている。

これらの土木工事のうち、いずれが基地関連かは、ちょっと見ただけでは分からないが、他の地域と比べ工事が相対的に多いことは明らかだ。

たとえば、米軍基地のある丹後町袖志と東隣の伊根町蒲入の間は、丹後半島一周道路(国道 178 号線)の中でも最難所であり、多くの工事が行われてきた。すでにトンネルや断崖絶壁中腹の難工事はほぼ完了しているが、まだ蒲入漁港付近など狭かったり急カーブだったりする部分がかかなり残っており、現在は、それらの改良工事が行われている。

あるいは米軍基地の地元の尾和地区では、農業用水路工事が急ピッチで進められている。また間人付近では、川沿いにバイパスを通す工事が始まっている。平坦な美田だが、そのど真ん中に広い直線道路ができるようだ。

以上のような土木工事のうち、いずれが米軍基地関連かは、前述のように部外者にはよく分からないが、他地域と比べ目立って多いという印象は否めない。丹後半島も、いわゆる「基地依存経済」に向かうのであろうか？



■米軍基地と土木工事(経ヶ岬バス停前より)



■カマヤ海岸バス停付近





■蒲入トンネル



■蒲入漁港付近



■尾和の農業用水路工事



■間人付近のバイパス工事

Written by Tanigawa 2017/11/10 at 17:23

カテゴリー: [軍事](#), [平和](#) Tagged with [米軍基地](#), [経ヶ岬](#), [Xバンドレーダー](#), [基地依存経済](#), [丹後半島](#), [京丹後](#)

## 京都の米軍基地(110): 米軍の英語帝国主義

先日、好天に誘われ、久しぶりに経ヶ岬米軍基地の見学に行ってきた。いくつか見られた変化の一つが、米軍英語帝国主義の顕在化。

日本軍もそうだったが、軍は、外国に進駐すると、軍事制圧と並行して文化制圧を図る。特に言語。「はじめに言葉があり、言葉は神であった。」その言葉を進駐軍が重視するのは当然だろう。

経ヶ岬米軍は、硬軟様々な言語政策を使い分けている。軟の方の典型は、繰り返し批判してきた、軍人・軍属がおやつ付きで遊んでくれる子供向け行事。少し硬くなると、“生きた英語が話せる”が売りの様々な日米交流事業。そして、さらに硬くなると、地域社会に英語(米語)を事実上強要する強権的駐留政策。

たとえば交通標識の英語表記。丹後では、**米軍関係事故がすでに51件も発生している**(憂う会「現地報告」11月5日)。日本の交通事情に疎く日本語も解さない米軍関係者に、特権的に車の運転を認めているからだ。事故の場合も、補償交渉は圧倒的に住民不利。こうした状況では、被害を受ける住民としては、せめて基本的な交通標識だけでも英語表記にしてほしいと要望せざるをえなくなる。事実上の英語使用強要への不本意な屈伏である。

むろんグローバル化の進展とともに諸外国との交流が深まり、様々な言語が日本にも入ってきているが、これはいわば自然な多言語化・多文化化であり、権力的に強要されたものではない。

これに対し、丹後半島の標識の英語化は、米軍駐留により半強制的に選択させられたとみるべきである。主権国家の国民として、これは甘受しがたい屈辱である。われわれは、このような米軍英語帝国主義に屈することなく、米軍と日本政府に対し、日本で車を運転する者には、運転に最低限必要な日本語と、日本の交通法規および交通慣行を学ばせよ、と要求し続けるべきであろう。





■「横断歩道注意」標識／標識前の丹後半島



■基地反対フェスタ看板と「注意」標識／標識付近から望む米軍基地

Written by Tanigawa 2017/11/08 at 08:08

カテゴリ: [言語](#), [平和](#) Tagged with [米軍基地](#), [経ヶ岬](#), [英語帝国主義](#), [Xバンドレーダー](#), [地位協定](#), [丹後半島](#), [京丹後](#)

## みのりの秋, 里も山も

今年も柿が豊作だ。枝が折れるほど、たくさんなっている。気候変動のせいかもしれないが、豊作それ自体はめでたい。

以前だと、柿が実れば採り入れ、甘柿はそのまま食べ、渋柿だと皮をむき軒下につるして干し柿とし、少しずつ食べた。干し柿は甘くて栄養満点の保存食だった。

ところが、いまでは柿はほとんど採られず、柿の木にそのまま放置されている。人手が少なくなったのと、他にスナック菓子など安直な食品があふれているからだろう。

しかも今年は、サルもカラスやヒヨドリも柿の実を食べにやってこない。山もきっと豊作で、わざわざ里まで降りてこなくてもよいのだろう。柿の実を食い荒らされると腹が立つが、今年のように全く来ないと、それはそれで少々淋しくはある。



Written by Tanigawa 2017/11/06 at 21:50

カテゴリー: [自然](#), [旅行](#) Tagged with [過疎](#), [柿](#), [丹後](#)